

評価シート 様式

取組名	和泉農業ヒト・モノ・カネ活用プロジェクト		
実施団体名	和泉商工会議所	対象地域	大阪府和泉市
(代表団体名)	和泉商工会議所	推薦団体名	和泉市

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたととは判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	和泉農業ヒト・モノ・カネ活用プロジェクト		
実施団体名	和泉商工会議所	対象地域	大阪府和泉市
(代表団体名)	和泉商工会議所	推薦団体名	和泉市

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	○先導性・モデル性 行政だけでなく、民(商工会議所)が先頭に立って、地域活性化のため農(近郊農業)・商(商店街)・工(大規模工業団地)・住(ニュータウン)の連携により、都市型農業の再生、地域商工業・地域住民との共生の実現を図る点で先導性・モデル性が認められる。
	○相乗効果・波及効果 観光農業の振興による商店街への回遊(活性化)、農業と商業(特に飲食店)との結びつきを強化することによる農業経営の安定など、連携することにより相乗効果・波及効果が高められることが確認できた。
	○ 評価
	□ ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。 ■ 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。 □ ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、農(近郊農業)・商(商店街)・工(大規模工業団地)・住(ニュータウン)の連携により、都市型農業の再生、地域商工業・地域住民との共生の実現に向けた、地域の自律モデルとなる取組である。連携に向けた様々な取組により、多くのネットワークや連携が出てきていることが高く評価できる。 今後は、構築したネットワークを活用し、具体的なビジネスモデルとして成立させることに重点を置き、地方の元気再生事業として支援を行うことにより継続的な展開が期待できるものである。 次年度以降の取組については、民主導で構築したネットワークと和泉観光・農業・商業の連携に必要なデータを活かし、和泉農業のブランド力強化と新たな販売ルートの実現を重点的に実施すべきである。具体的には、①本格的な和泉農業生産体制の確立は、研究会・勉強会・検討会の実施を事業化に繋がるテーマ対象のものに絞り込む必要がある。②農業者育成のバックアップ体制づくりについては、他の支援制度活用や独自の取組で実施すべきである。③インバウンド・グリーンツーリズムについては、本年度の取組の繰り返しでなく、会員制体験農業の事業化につながる取組に絞って実施すべきである。④飲食店マッチング、大手百貨店マッチング、マッチングのためのPR、営農計画のモデル事業、⑤援農ポイントネットワークについては事業の本格展開につながる取組である。⑥和泉ブランドの確立については、ブランド化の重要性をふまえて、単発のPRに終わらないよう取組を絞り込んで実施すべきである。